

PCT/JP 2004/000856

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

29.1.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2004年 1月23日

出願番号
Application Number: 特願2004-015522
[ST. 10/C]: [JP 2004-015522]

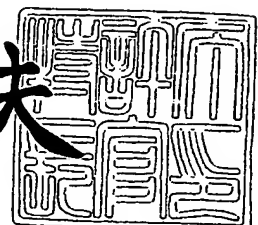
出願人
Applicant(s): キヤノン株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 3月 5日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特 2004-3017020

【書類名】 特許願
【整理番号】 0001214-01
【提出日】 平成16年 1月23日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G03B 17/00
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 後藤 史博
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 山田 顕季
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 矢野 健太郎
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 愛知 孝郎
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 榎本 和幸
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 三上 留理子
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 【氏名】 坂本 和弥
【特許出願人】
 【識別番号】 000001007
 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100076428
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 大塚 康德
【選任した代理人】
 【識別番号】 100112508
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 高柳 司郎
【選任した代理人】
 【識別番号】 100115071
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 大塚 康弘
【選任した代理人】
 【識別番号】 100116894
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 木村 秀二
【先の出願に基づく優先権主張】
 【出願番号】 特願2003- 24542
 【出願日】 平成15年 1月31日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003458

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 特許請求の範囲 1

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0102485

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録する記録システムであって、

前記記録装置において記録処理が途中で終了した時、前記記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定する判定手段と、

前記判定手段により記録再開可能な種別であると判定されると前記記録装置に記録再開を指示する指示手段と、

前記指示手段により指示に際して、記録済みの画像データ以降の記録を指示するように制御する制御手段と、

を有することを特徴とする画像供給デバイス。

【請求項 2】

前記判定手段は、記録処理が途中で終了した時の記録装置と、記録装置の機種名、メーカー名或いはベンダー名の少なくとも 1 つが同一の場合に記録再開可能と判定することを特徴とする請求項 1 に記載の画像供給デバイス。

【請求項 3】

前記記録処理は、DPOF ファイルに基づく第 1 記録処理と、各画像ファイルを指示して行う第 2 記録処理とを含み、

前記制御手段は、前記第 1 記録処理の場合は、前記 DPOF ファイルの記録済みのページ以降の画像ファイルの記録を指示し、前記第 2 記録処理の場合は記録済みの画像ファイル以降の画像ファイルの記録を指示することを特徴とする請求項 1 に記載の画像供給デバイス。

【請求項 4】

前記汎用インターフェースは USB であることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の画像供給デバイス。

【請求項 5】

前記画像供給デバイスはデジタルカメラであることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の画像供給デバイス。

【請求項 6】

画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録する記録システムであって、

前記記録装置において記録処理が途中で終了した時、前記記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定し、

記録再開可能な種別であると判定されると前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録再開を指示し、

前記記録再開の指示とともに、前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録済みの画像データ以降の記録を指示するようにしたことを特徴とする記録システム。

【請求項 7】

前記判定は、記録処理が途中で終了した時の記録装置と、記録装置の機種名、メーカー名或いはベンダー名の少なくとも 1 つが同一の場合に記録再開可能と判定することを特徴とする請求項 6 に記載の記録システム。

【請求項 8】

前記記録処理は、DPOF ファイルに基づく第 1 記録処理と、各画像ファイルを指示して行う第 2 記録処理とを含み、

前記第 1 記録処理の場合は、前記 DPOF ファイルの記録済みのページ以降の画像ファイルの記録を指示し、前記第 2 記録処理の場合は記録済みの画像ファイル以降の画像ファイルの記録を指示することを特徴とする請求項 6 に記載の記録システム。

【請求項 9】

画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像

供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録するシステムにおける制御方法であって、

記録処理が途中で終了した時に接続されている記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定する判定工程と、

前記判定工程で記録再開可能な種別であると判定されると前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録再開を指示する工程と、

前記記録再開の指示とともに、前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録済みの画像データ以降の記録を指示する工程と、

を有することを特徴とする記録システムにおける制御方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】画像供給デバイス及び記録システム及びその制御方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、デジタルカメラなどの画像供給デバイスと記録システム及びその制御方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、簡単な操作で画像を撮影してデジタル画像データに変換できるデジタルカメラ（撮像装置）、所謂、デジカメが広く使用されるようになってきている。このようなカメラで撮影した画像を印刷して写真として使用する場合には、通常、一旦、その撮影されたデジタル画像データを、デジタルカメラからPC（コンピュータ）に取り込み、そのPCで画像処理を行った後、そのPCからカラープリンタに出力して印刷するのが一般的である。

【0003】

これに対して最近では、PCを介することなく、直接、デジタルカメラからカラープリンタにデジタル画像データを伝送して印刷することができるカラープリントシステムや、デジタルカメラに搭載され、撮像した画像を記憶しているメモ리카ードを、直接、カラープリンタに装着し、そのメモ리카ードに記憶されている、撮影された画像を印刷できる、所謂フォトダイレクト（PD）プリンタ等も開発されている（特許文献1）。

【特許文献1】特開平11-7701号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特に、デジタルカメラから直接プリンタに画像データを伝送して印刷するために、各メーカーのデジタルカメラとプリンタ装置とのインターフェース仕様や操作方法などの標準化が望まれている。このような標準化のための一提案としてDPS（Direct Print System）実現のためのガイドラインが提唱されている。

【0005】

しかしながら、例えばデジタルカメラからの画像データの印刷中にケーブルが外されたり、或いはプリンタ装置の電源がオフされるなどにより印刷処理が途中で終了した場合、その印刷処理を再開することに関しては詳細に規定されていないため、ここではそれを実現する一手法を提案する。

【0006】

本発明は上記従来例に鑑みてなされたもので、途中で終了した記録処理を再開する際における処理効率を高めることができる画像供給デバイス及び記録システム及びその制御方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の画像供給デバイスは以下のような構成を備える。即ち、

画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録する記録システムで使用される画像供給デバイスであって、

前記記録装置において記録処理が途中で終了した時、前記記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定する判定手段と、

前記判定手段により記録再開可能な種別であると判定されると前記記録装置に記録再開を指示する指示手段と、

前記指示手段により指示に際して、記録済みの画像データ以降の記録を指示するように制御する制御手段とを有することを特徴とする。

【0008】

本発明の記録システムは以下のような構成を備える。即ち、
画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録する記録システムであって、
前記記録装置において記録処理が途中で終了した時、前記記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定し、

記録再開可能な種別であると判定されると前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録再開を指示し、

前記記録再開の指示とともに、前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録済みの画像データ以降の記録を指示するようにしたことを特徴とする。

【0009】

本発明の記録システムにおける制御方法は以下のような工程を備える。即ち、

画像供給デバイスと記録装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、前記画像供給デバイスから前記記録装置に画像データを送信して記録する記録システムにおける制御方法であって、

記録処理が途中で終了した時に接続されている記録装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定する判定工程と、

前記判定工程で記録再開可能な種別であると判定されると前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録再開を指示する工程と、

前記記録再開の指示とともに、前記画像供給デバイスから前記記録装置に記録済みの画像データ以降の記録を指示する工程とを有することを特徴とする。

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、中断されている記録処理を再開する際の処理効率を高めることができるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、添付図面を参照して本発明の好適な実施の形態を詳細に説明する。

【0012】

【実施の形態1】

図1は、本発明の実施の形態に係るフォトダイレクトプリンタ装置（以下、PDプリンタ装置）1000の概観斜視図である。このPDプリンタ装置1000は、ホストコンピュータ（PC）からデータを受信して印刷する通常のPCプリンタとしての機能と、メモ리카ードなどの記憶媒体に記憶されている画像データを直接読取って印刷したり、或いはデジタルカメラからの画像データを受信して印刷する機能を備えている。

【0013】

図1において、実施の形態に係るPDプリンタ装置1000の外殻をなす本体は、下ケース1001、上ケース1002、アクセスカバー1003及び排出トレイ1004の外装部材を有している。また、下ケース1001は、PDプリンタ装置1000の略下半部を、上ケース1002は本体の略上半部をそれぞれ形成しており、両ケースの組合せによって内部に後述の各機構を収納する収納空間を有する中空体構造をなし、その上面部及び前面部にはそれぞれ開口部が形成されている。さらに、排出トレイ1004は、その一端部が下ケース1001に回転自在に保持され、その回転によって下ケース1001の前面部に形成される開口部を開閉させ得るようになっている。このため、記録動作を実行させる際には、排出トレイ1004を前面側へと回転させて開口部を開成させることにより、ここから記録シートが排出可能となると共に、排出された記録シートを順次積載し得るようになっている。また、排紙トレイ1004には、2枚の補助トレイ1004a、1004bが収納されており、必要に応じて各トレイを手前に引き出すことにより、用紙の支持面積を3段階に拡大、縮小させ得るようになっている。

【0014】

アクセスカバー1003は、その一端部が上ケース1002に回転自在に保持され、上

面に形成される開口部を開し得るようになっており、このアクセスカバー1003を開くことによって本体内部に収納されている記録ヘッドカートリッジ（不図示）あるいはインクタンク（不図示）等の交換が可能となる。なお、ここでは特に図示しないが、アクセスカバー1003を開閉させると、その裏面に形成された突起がカバー開閉レバーを回転させるようになっており、そのレバーの回転位置をマイクロスイッチなどで検出することにより、アクセスカバー1003の開閉状態を検出し得るようになっている。

【0015】

また、上ケース1002の上面には、電源キー1005が押下可能に設けられている。また、上ケース1002の右側には、液晶表示部1006や各種キースイッチ等を備える操作パネル1010が設けられている。この操作パネル1010の構造は、図2を参照して詳しく後述する。1007は自動給送部で、記録シートを装置本体内部へと自動的に給送する。1008は紙間選択レバーで、プリントヘッドと記録シートとの間隔を調整するためのレバーである。1009はカードスロットで、ここにメモリカードを装着可能なアダプタが挿入され、このアダプタを介してメモリカードに記憶されている画像データを直接取り込んで印刷することができる。このメモリカード（PC）としては、例えばコンパクトフラッシュ（登録商標）メモリ、スマートメディア、メモリスティック等がある。1011はビューワ（液晶表示部）で、このPDプリンタ装置1000の本体に着脱可能であり、PCカードに記憶されている画像の中からプリントしたい画像を検索する場合などに、1コマ毎の画像やインデックス画像などを表示するのに使用される。1012は後述するデジタルカメラを接続するためのUSB端子である。また、このPD装置1000の後面には、パーソナルコンピュータ（PC）を接続するためのUSBコネクタが設けられている。

【0016】

図2は、実施の形態に係るPDプリンタ装置1000の操作パネル1010の概観図である。

【0017】

図において、液晶表示部1006には、その左右に印刷されている項目に関するデータを各種設定するためのメニュー項目が表示される。ここに表示される項目としては、例えば、印刷したい範囲の先頭写真番号、指定コマ番号（開始コマ指定／印刷コマ指定）、印刷を終了したい範囲の最後の写真番号（終了）、印刷部数（部数）、印刷に使用する用紙（記録シート）の種類（用紙種類）、1枚の用紙に印刷する写真の枚数設定（レイアウト）、印刷の品位の指定（品位）、撮影した日付を印刷するかどうかの指定（日付印刷）、写真を補正して印刷するかどうかの指定（画像補正）、印刷に必要な用紙枚数の表示（用紙枚数）等がある。これら各項目は、カーソルキー2001を用いて選択、或いは指定される。2002はモードキーで、このキーを押下する毎に、印刷の種類（インデックス印刷、全コマ印刷、1コマ印刷等）を切り替えることができ、これに応じてLED2003の対応するLEDが点灯される。2004はメンテナンスキーで、プリントヘッドのクリーニング等、プリンタのメンテナンスを行わせるためのキーである。2005は印刷開始キーで、印刷の開始を指示する時、或いはメンテナンスの設定を確立する際に押下される。2006は印刷中止キーで、印刷を中止させる時や、メンテナンスの中止を指示する際に押下される。

【0018】

次に図3を参照して、実施の形態に係るPDプリンタ装置1000の制御に係る主要部の構成を説明する。尚、この図3において、前述の図面と共通する部分は同じ記号を付与して、それらの説明を省略する。

【0019】

図3において、3000は制御部（制御基板）を示している。3001はASIC（専用カスタムLSI）を示している。3002はDSP（デジタル信号処理プロセッサ）で、内部にCPUを有し、後述する各種制御処理及び、輝度信号（RGB）から濃度信号（CMYK）への変換、スケーリング、ガンマ変換、誤差拡散等の画像処理等を担当してい

る。3003はメモリ、DSP3002のCPUの制御プログラムを記憶するプログラムメモリ3003a、及び実行時のプログラムを記憶するRAMエリア、画像データなどを記憶するワークメモリとして機能するメモリエリアを有している。3004はプリンタエンジンで、ここでは、複数色のカラーインクを用いてカラー画像を印刷するインクジェットプリンタのプリンタエンジンが搭載されている。3005はデジタルカメラ(DSC)3012を接続するためのポートとしてのUSBコネクタである。3006はビューワ1011を接続するためのコネクタである。3008はUSBハブ(USB HUB)で、このPDプリンタ装置1000がPC3010からの画像データに基づいて印刷を行う際には、PC3010からのデータをそのままスルーし、USB3021を介してプリンタエンジン3004に出力する。これにより、接続されているPC3010は、プリンタエンジン3004と直接、データや信号のやり取りを行って印刷を実行することができる(一般的なPCプリンタとして機能する)。3009は電源コネクタで、電源3019により、商用ACから変換された直流電圧を入力している。PC3010は一般的なパーソナルコンピュータ、3011は前述したメモ리카ード(PCカード)、3012はデジタルカメラ(DSC: Digital Still Camera)である。

【0020】

尚、この制御部3000とプリンタエンジン3004との間の信号のやり取りは、前述したUSB3021又はIEEE1284バス3022を介して行われる。

【0021】

図4は、実施の形態に係るDSC(デジタルカメラ)3012の構成を示すブロック図である。

【0022】

同図において、3100はDSC3012全体の制御を司るCPUであり、3101はCPU3100による処理手順を記憶しているROMである。3102はCPU3100のワークエリアとして使用されるRAMであり、3103は各種操作を行うスイッチ群で、各種スイッチやカーソルキー等が含まれている。2700は液晶表示部であり、現時点で撮影している映像や、撮像されて記憶されている画像を表示したり、各種設定を行う際のメニューを表示するために使用される。3105は光学ユニットであり、主としてレンズ及びその駆動系で構成される。3106はCCD素子であり、3107はCPU3100の制御下において光学ユニット3105を駆動制御するドライバである。3108は記憶媒体3109(コンパクトフラッシュ(登録商標)メモ리카ード、スマートメディア等)を接続するためのコネクタであり、3110はPC或いは実施形態におけるPDプリンタ1000と接続するためのUSBインターフェース(USBのスレーブ側)である。

【0023】

図5は、実施の形態に係るPDプリンタ装置1000とDSC3012との接続を説明する図で、前述の図面において共通している部分は同じ記号で示し、その説明を省略している。

【0024】

図において、ケーブル5000は、PDプリンタ装置1000のコネクタ1012と接続されるコネクタ5001と、デジタルカメラ3012の接続用コネクタ5003と接続するためのコネクタ5002とを備えており、また、デジタルカメラ3012は、内部のメモリに保存している画像データを、接続用コネクタ5003を介して出力可能に構成されている。なお、デジタルカメラ3012の構成としては、内部に記憶手段としてのメモリを備えるものや、取外し可能なメモリを装着するためのスロットを備えたものなど、種々の構成を採用することができる。このように、図5に示すケーブル5000を介してPDプリンタ装置1000とデジタルカメラ3012とを接続することにより、デジタルカメラ3012からの画像データを直接PDプリンタ装置1000で印刷することができる。

【0025】

以下、以上の構成に基づく実施の形態に係る印刷システムの動作例を実施の形態として

説明する。

【0 0 2 6】

以上の構成に基づく D S C 3 0 1 2 と P D プリント装置 1 0 0 0 とを含む印刷システムにおける動作概要を以下に説明する。尚、この実施の形態に係る印刷システムでは、D S C 3 0 1 2 と P D プリント装置 1 0 0 0 とはそれぞれ D P S (Direct Print System) の仕様に従った動作が可能であるものとする。

【0 0 2 7】

図 6 は、実施の形態に係る印刷システムにおいて、D S C 3 0 1 2 から P D プリント装置 1 0 0 0 に対してプリント要求を発行して印刷を行う場合の手順を説明する図である。

【0 0 2 8】

この処理手順は、P D プリント装置 1 0 0 0 と D S C 3 0 1 2 とが U S B ケーブル 5 0 0 0 を介して接続された後、互いに D P S 仕様に準拠していることを確認した後に実行される。まず D S C 3 0 1 2 は「CofigurePrintService」を P D プリント装置 1 0 0 0 に送信して、P D プリント装置 1 0 0 0 の状態をチェックする (6 0 0)。これに対して P D プリント装置 1 0 0 0 から、その時点での P D プリント装置 1 0 0 0 の状態 (ここでは「アイドル」状態) が通知される (6 0 1)。そして D S C 3 0 1 2 は、P D プリント装置 1 0 0 0 の capability を問合せ (6 0 2)、その capability に応じたプリント開始要求 (StartJob) を発行する (6 0 3)。尚、このプリント開始要求は、6 0 1 で、後述する P D プリント装置 1 0 0 0 からのステータス情報の中の「newJobOK」が「True (真)」になっていることを条件に発行される。

【0 0 2 9】

このプリント開始要求に対して P D プリント装置 1 0 0 0 は、印刷が指示された画像データのファイル ID に基づいてファイル情報を D S C 3 0 1 2 に要求する (6 0 4)。これに回答して D S C 3 0 1 2 からはファイル情報が送信される。このファイル情報にはファイル容量等の情報が含まれる。そして P D プリント装置 1 0 0 0 がそのファイル情報を受信して処理可能であると判断すると、そのファイル情報を D S C 3 0 1 2 に要求する (6 0 5)。これによりその要求されたファイルの画像データが D S C 3 0 1 2 から P D プリント装置 1 0 0 0 に送られる。これにより P D プリント装置 1 0 0 0 がプリント処理を開始すると、6 0 6 で「印刷中 (Printing)」を示すステータス情報が、P D プリント装置 1 0 0 0 から D S C 3 0 1 2 に「NotifyDeviceStatus」によって送られる。そして 1 頁のプリント処理が終了すると、次のページの処理開始時に P D プリント装置 1 0 0 0 から「NotifyJobStatus」6 0 7 により、それが通知される。そして 1 頁だけの印刷であればプリント要求した 1 頁の印刷が終了すると、次に「NotifyDeviceStatus」6 0 8 により P D プリント装置 1 0 0 0 が「アイドル」状態になったことが通知される。尚、例えば、1 頁に複数 (N) の画像をレイアウトして印刷する N - u p 印刷の場合には、N 枚の画像を印刷する度に、「NotifyJobStatus」6 0 7 が P D プリント装置 1 0 0 0 から D S C 3 0 1 2 に送られることになる。実施の形態での「NotifyJobStatus」及び「NotifyDeviceStatus」の発行タイミングと画像データの取得の順番は一例であり、製品の実装によっては様々なケースが起こりうる。

【0 0 3 0】

尚、このプリント処理において、D S C 3 0 1 2 からのプリント開始要求 (StartJob) に、印刷すべき画像データのファイル ID を一括して含めて送信して印刷する場合と、一般の写真現像で使用される D P O F ファイルのファイル ID のみを D S C 3 0 1 2 からのプリント開始要求 (StartJob) に含めて P D プリント装置 1 0 0 0 に送信し、P D プリント装置 1 0 0 0 がその D P O F ファイルを解釈し、必要な画像データのファイル ID を取得してプリントする場合も含まれる。

【0 0 3 1】

図 7 は、D S C 3 0 1 2 から P D プリント装置 1 0 0 0 に対して発行されるプリント開始要求の具体例を説明する図である。

【0 0 3 2】

図において、720はこの印刷ジョブのコンフィグレーション(JobConfig)を示し、721はプリント情報(printInfo)を示している。

【0033】

まずコンフィグレーション720について説明する。700は印刷する画質を示し、これには例えば「標準」、「高画質」などがある。701は用紙サイズ、702は用紙タイプで、例えば「普通紙」、「写真用紙」、「インクジェット専用紙」等がある。703は印刷する画像ファイルのタイプを指定するもので、例えばDPOFを使用する場合は、これで指定される。704は日付印刷の有無、705はファイル名の印刷の有無、706は画像最適化を行うかどうか、707は固定サイズの印刷、708は画像の指定された範囲の印刷を行うかどうかの有無をそれぞれ指定する。

【0034】

またプリント情報721は、ファイルID709と、日付情報710を含んでいる。

【0035】

図8は、前述のJobStatusとDeviceStatusに含まれる情報を説明する図である。ここで図8(A)のJobStatus及び図8(B)のDeviceStatusはPDプリンタ装置1000からDSC3012に送信される。また、DSC3012は任意のタイミングで、それらの情報をPDプリンタ1000へ送信要求する事が出来る。

【0036】

図8において、「prtPID」、「ImagePath」及び「copyID」はDPOFファイルの印刷が指示された場合に有効になる。「prtPID」はDPOFファイルで指定された印刷セクションの識別情報(ID)、「ImagePath」はDPOFファイルで指定された画像ファイルを特定するためのパスの情報、そして「copyID」は複数枚印刷指定時に実際に何枚目を印刷しているかを意味している。DPOFファイルによる印刷の場合は、DSC3012は、プリント開始要求(StartJob)中にDPOFファイルの「fileID」を記載してPDプリンタ装置1000に送信する。これによりPDプリンタ装置1000は、そのDPOFファイルの印刷を開始できる。そしてPDプリンタ装置1000は、そのDPOFファイルの「fileID」を基にDPOFファイルを取得し、「GetFileID」を実行して、DPOFファイル中に指定された画像ファイルの「fileID」を特定し、その画像ファイルをDSC3012に要求して、その画像データを取得する。こうしてDPOFファイルで指定された画像を印刷することができる。そして、DPOFファイルによる印刷実行中に、印刷の進行状況を示す上記「prtPID」、「ImagePath」及び「copyID」がPDプリンタ装置1000から「NotifyJobStatus」によりDSC3012に通知される。これら「prtPID」、「ImagePath」及び「copyID」の情報は、印刷再開時に既にプリント済みの画像を再度プリントしないために、中断後に再開の可能性がある間は、内部メモリに保持しておくものとする。

【0037】

尚、このDPOFファイルの印刷中に何らかの理由で印刷が中断された後、印刷が再開された時は、印刷が中止されたページの先頭から、その印刷処理が再開される。

【0038】

「progress」は、印刷予定枚数の内、現在何枚目を印刷しているか(N/T)を示す。ここでNは現在の印刷ページ、Tはトータルの印刷枚数を示す。「imagePrinted」は印刷済みの画像枚数を示す。

【0039】

次にDeviceStatusについて説明する。

【0040】

「dpsPrintServiceStatus」は、PDプリンタ装置1000の状態を意味し、DSC3012に通知される。これにはアイドル、プリント、ポーズ状態が含まれる。「jobEndReason」は、プリント処理の終了状況を意味し、最終ページの印刷が完了するとDSC3012に通知される。「errorStatus」はそのエラーの状態を意味し、エラーが発生した場合に通知される。「errorReason」は、そのエラーの発生理由を意味し、「errorStatus

」と共に通知される。「connectEnable」は、USBケーブル5000が外されても印刷可能であることを意味し、PDプリンタ装置1000からDSC3012に通知される。「capabilityChanged」は、PDプリンタ装置1000におけるcapabilityが変更されたことを意味し、DSC3012に通知される。「newJobOK」は、PDプリンタ装置1000が印刷要求を受け付け可能であることを意味し、DSC3012に通知される。

【0041】

図9は、実施の形態のDSC3012における印刷再開処理を示すフローチャートである。尚、この処理を実行するプログラムはROM3101に記憶されており、このプログラムに従ってCPU3100が制御処理を実行することにより、この処理が実現される。

【0042】

この処理はプリントジョブの実行中に、例えばケーブル5000が外れることによりプリント動作が中止され、その後、DPSの再接続が確立されて、DSC3012の印刷ボタンが指示されて、PDプリンタ装置1000に対してプリント動作の再開が指示されることにより、PDプリンタ装置1000において印刷が再開される処理を示したものである。

【0043】

この前提としては、PDプリンタ装置1000においてプリント処理が中断されており、DSC3012においても、プリント処理が中断していることを認識していることが必要である。

【0044】

まずステップS1で、ケーブル5000が接続される等により、DSC3012とPDプリンタ装置1000とが物理的に接続されて、DPSの再接続が確立されたか否かが判定され、接続が確立されるとステップS2に進み、DSC3012において印刷再開が指示されると、プリントの中断中であるか否かを判断する。そうでない時はステップS3に進み、通常の処理、即ち、印刷指示に応じて新規に印刷を開始する等の処理に移行する。

【0045】

プリントの中断中である時はステップS4に進み、新たに接続が確立したPDプリンタ装置1000は、前回のプリント処理が中断した時のPDプリンタ装置1000と同じ機種(<dpsVersion>と<productName>が同じ)或いは同じメーカーの機種(<productName>)、或いは同じベンダーの機種(<vendorName>)かどうかを判定する。この手順は、DSC3012から発行される「ConfigurePrintService」に対してPDプリンタ装置1000から応答される内容に基づいて判断する。これは同じPDプリンタ装置が再接続された場合は問題ないが、それ以外の機種でも同じメーカーやベンダーの機種であれば、各メーカーやベンダーの設計に基づいて実施の形態に係る再印刷処理が可能である場合には再開可能と判断して、これ以降の処理に進むものである。ステップS4で「No」と判定されるとステップS5に進み、プリントの継続が実行できないと判断して、その旨を表示部2700に表示する。また、この時必要に応じて、表示部2700に表示するUI(ユーザーメニュー画面)を変更しても良い。

【0046】

ステップS4で、対応機種であると判定するとステップS6に進み、DPOFファイルの印刷中であったかどうかを調べる。そうであればステップS7に進み、DPOFファイルのファイルIDをPDプリンタ装置1000に送信する。この場合、既に印刷済みのページの画像ファイルを印刷しないように、前述の「prtPID」、「imagePath」や「copyID」の少なくともいずれかをDPOFファイルのファイルIDと共に送信することにより、DPOFファイル中の印刷再開を行うファイルを指定する。

【0047】

また一方ステップS6で、DPOFファイルの印刷でない時、即ち、各画像ファイルを指定して印刷を行う場合には、当所印刷予定の画像ファイルのファイルID中から既に印刷済みの画像ファイルを除いた画像ファイルのファイルIDを一括してPDプリンタ装置1000に送信して印刷を実行する。尚、ここで印刷再開指示は、DSC3012の操作

ボタンの中の印刷ボタンが指示されることにより、DSC3012からPDプリンタ装置1000に「StartJob」が送られて印刷が再開される。

【0048】

尚、各ページのプリント終了は、PDプリンタ装置1000からの次のページの先頭で送られる「jobStatus」（次ページのプリント開始を意味する）、或いは最終ページの場合は「deviceStatus」に含まれる「jobEndReason」によりPDプリンタ装置1000からDSC3012に報知される。従って、DSC3012は印刷済みの画像枚数を確認することができ、各画像を一枚ずつ印刷する場合は、印刷命令で指定した枚数の画像の印刷が終了しているかどうかにより、或いはDPOFファイルによる印刷の場合には、そのDPOFファイル中の進捗状況（「prtPID」、「ImagePath」及び「copyID」）または印刷が完了したかどうかにより印刷の中断かどうかを判定できる。

【0049】

また、1ページに一枚の画像を印刷する場合には、印刷する用紙枚数と画像の数とは一致するが、1枚の用紙に複数（N）の画像をレイアウト印刷する場合には、印刷する画像の数と印刷枚数とは一致しない。このためDSC3012では、印刷モードに応じて、印刷する用紙枚数と画像データの数との整合を採る必要がある。

【0050】

前述の図7において、<jobConfig>720の704で日付印刷<datePrint>が指定されている場合は、<printInfo>721に含まれている日付データ<date>710が印刷される。また、<jobConfig>720の704で日付印刷<datePrint>が指定されていない場合には、<printInfo>721に日付データ<date>710が含まれていても、その日付データは無視され印刷されることはない。

【0051】

これにより、<printInfo>721に含むデータの自由度が増すため、例えば他で使用している画像データと日付リストをそのまま<printInfo>721に貼付けることにより、startJobコマンドを作成することが出来る。

【0052】

図10は、本発明の実施の形態に係る印刷システムにおける処理を説明するフローチャートである。

【0053】

この実施の形態では、DSC3012からPDプリンタ装置1000に対して何らかのコマンドを発行した場合、それに伴ってPDプリンタ装置1000のステータスが変更されると、それが前述の「NotifyDeviceStatus」によりPDプリンタ装置1000からDSC3012に通知される。しかしながら、そのPDプリンタ装置1000で状態変化が発生しなかった場合、或いはその応答が遅れた場合には、DSC3012では、前回発行したコマンドによりPDプリンタ装置1000において、当然に予測されるステータスの変化が発生しているものと判断（推測）して、それに応じた処理を実行する。また、PDプリンタ装置1000の状態を確認したい場合には、PDプリンタ装置1000に対して「GetDeviceStatus」を発行することにより、そのPDプリンタ装置1000の状態を取得し、その取得したステータスに応じた処理を実行する。

【0054】

以下、図10のフローチャートを参照してその一例を説明する。

【0055】

まずステップS10で、PDプリンタ装置1000に対して印刷開始要求「StartJob」を発行する。次にステップS11に進み、所定時間内にPDプリンタ装置1000から所定のステータス応答「NotifyDeviceStatus」が送られてくるかをみる。仮にPDプリンタ装置1000が1つの印刷ジョブのみ受け付け可能な製品であった場合には、印刷開始要求「StartJob」を発行すると、PDプリンタ装置1000が次の印刷ジョブの受け付けが不可能な状態であることを示す「NotifyDeviceStatus」の「newJobOK」が「False（偽）」になっているはずである。こうしてステップS11で正常な応答が受信されるとステッ

ブ S 1 2 に進み、次に「newJobOK」が「true (真)」になるのを待って次のコマンド発行を行ったり、PD プリント装置 1 0 0 0 からの要求に応じて画像データ等を入力する、通常の印刷処理を実行する。

【0056】

ステップ S 1 3 で、実行できなかったことを示す「NotExecuted」を受信したかを調べる。「NotExecuted」を受信したときはステップ S 2 0 に進み、PD プリント装置 1 0 0 0 に対して「GetDeviceStatus」を発行し、PD プリント装置 1 0 0 0 のステータスを取得する。そのステータスにより命令が実行されなかった理由が判明して、再発行可能であれば表示部 2 7 0 0 の UI にその旨を表示する。ここでユーザにより命令の再発行が指示されるとステップ S 2 1 から S 2 2 に進み、依然実行されなかった命令を再度 PD プリント装置 1 0 0 0 に再発行する。再発行の指示が入力されない時はステップ S 2 2 からステップ S 1 9 に進む。

【0057】

またステップ S 1 3 で、「NotExecuted」を受信していないときはステップ S 1 4 に進み、「NotSupported」を受信したかどうかをみる。「NotSupported」を受信したときはステップ S 1 5 に進み、この場合は前回発行したコマンドは PD プリント装置 1 0 0 0 によりサポートされていないので、表示部 2 7 0 0 の UI に、そのコマンドが PD プリント装置 1 0 0 0 においてサポートされないことを示すように、例えば選択不能して表示する。

【0058】

ステップ S 1 4 で「NotSupported」を受信していない時はステップ S 1 1' に進む。ステップ S 1 1' で所定のステータス応答を受信した場合にはステップ S 1 2 に進み、通常の動作を継続する。ステップ S 1 1' で所定のステータス情報を受信しない時にはステップ 1 6 に進み、通常の動作として動作を継続するかどうかを判定する。これは前述の UI を用いて表示し、ユーザにより選択可能にしても良い。通常の動作に進む時はステップ S 1 2 に進むが、ユーザによる指示などが無くて通常の動作に移行しない時はステップ S 1 7 に進み、PD プリント装置 1 0 0 0 に対してステータスを要求する。次にステップ S 1 8 に進み、その取得したステータスが正常なステータスであれば、通常予測されるステータスであるとしてステップ S 1 2 に進む。それ以外のステータスが取得された時はステップ S 1 9 に進み、その取得したステータスに応じた処理を実行する。

【0059】

尚、前述のステップ S 1 3 で、予期しない「NotExecuted」が応答された場合の理由としては、例えば PC 3 0 1 0 が接続されていて、DSC 3 0 1 2 からの印刷開始要求と略同時に PC 3 0 1 0 からの印刷指示を受信して、PC 3 0 1 0 からの印刷データによる印刷処理を実行し始めた場合等が考えられる。また、ステップ S 1 1 で所定のステータス情報を受信しない場合の理由としては、例えば PD プリント装置 1 0 0 0 が複数の印刷ジョブを受け付け可能な製品であり、印刷要求「StartJob」を受け付けた後でも「DeviceStatus」の「newJobOK」が「True (真)」のまま変化せず、その為に「NotifyDeviceStatus」が PD プリント装置 1 0 0 0 から発行されない場合等が考えられる。この場合においても DSC 3 0 1 2 側としては「GetDeviceStatus」で PD プリント装置 1 0 0 0 の状態を確認するまでは PD プリント装置 1 0 0 0 の状態を仮に「newJobOK」が「False (偽)」と推測して動作する方が安全である。(何らかの理由で「newJobOK」が「False (偽)」という状態を通知する「NotifyDeviceStatus」の発行が遅れている可能性が有るため)

次に、実施の形態に係る印刷システムの DSC 3 0 1 2 からプリントの継続及びプリント中断の場合の処理を説明する。この場合も、印刷システムの構成及び DSC 3 0 1 2、PD プリント装置 1 0 0 0 の構成は前述の構成と同様であるため、その説明を省略する。

【0060】

図 1 1 は、実施の形態に係る DSC 3 0 1 2 におけるプリント処理が中断されていて、プリント開始を指示する印刷ボタンが指示されることにより実行されるプリント継続処理を説明するフローチャートである。

【0061】

まずステップS111で、DSC3012の操作ボタン3101の印刷ボタンが指示されたかを調べ、そうでない時はステップS111に進み、指示されたボタン或いはボタンによる指示待ちの等の他の処理を実行する。印刷ボタンが指示された時はステップS112に進み、PDプリンタ装置1000に対して「GetDeviceStatus」を発行して、PDプリンタ装置1000のステータス情報を要求し、それに応答してPDプリンタ装置1000から送られてくるステータス情報を取得する。次にステップS113に進み、その取得したステータス情報に基づいて、PDプリンタ装置1000のステータスが「ポーズ」であるかをみる。そうであればステップS114に進み、過去にエラーが発生していて「Warning」になっている（例えばケーブルの脱着等）か、或いはエラーが発生していないかをみる。そうであれば印刷処理の再開が可能（PDプリンタ装置1000よりのステータスを受信しているため）と判断してステップS115に進み、PDプリンタ装置1000に対してプリント処理の再開を指示する（「ContinueJob」の送信）。

【0062】

またステップS113で、ポーズ状態でない時、或いはステップS114で、別のエラーが発生している時は印刷再開が不可能と判断して、表示部2700のUIにその旨を表示する。この場合は、例えば表示部2700にメッセージを表示してユーザに印刷再開ができない旨を通知したり、及び／或いは印刷ボタンの選択を不可能にすることなどが考えられる。また、ステップS110の印刷ボタンの押下判定前にプリンタのステータスを取得しておき、印刷ボタンのOn/Offを設定しユーザに通知する事でユーザに無用な印刷ボタンの押下を行わせる事を避ける事が出来る。

【0063】

図12は、実施の形態に係るDSC3012におけるプリント処理の中止を指示する印刷中止ボタンが指示されることにより実行されるプリント中止処理を説明するフローチャートである。

【0064】

まずステップS121で、DSC3012の操作ボタン3103の中止ボタンが指示されたかを調べ、そうでない時はステップS122に進み、指示されたボタン或いはボタンによる指示待ちの等の他の処理を実行する。中止ボタンが指示された時はステップS123に進み、PDプリンタ装置1000に対して「GetDeviceStatus」を発行して、PDプリンタ装置1000のステータス情報を要求し、それに応答してPDプリンタ装置1000から送られてくるステータス情報を取得する。次にステップS124に進み、その取得したステータス情報に基づいて、PDプリンタ装置1000のステータスが「ポーズ」であるかをみる。そうであればステップS126に進むが、そうでない時はステップS125に進み、プリント中であるかをみる。そうであれば印刷処理の中止が可能と判断してステップS126に進み、PDプリンタ装置1000に対してプリント処理の中止を指示する（「AbortJob」の送信）。

【0065】

またステップS125で印刷中でない時は、印刷処理の中止は不可能であると判断して、表示部2700のUIにその旨を表示する。この場合は、例えば表示部2700にメッセージを表示してユーザに印刷中止ができない旨を通知したり、及び／或いは中止ボタンの選択を不可能にすることなどが考えられる。また、ステップS121の中止ボタンの押下判定前にプリンタのステータスを取得しておき、中止ボタンのOn/Offを設定しユーザに通知する事でユーザに無用な中止ボタンの押下を行わせる事を避ける事が出来る。

【0066】

【実施の形態2】

上述した実施の形態1では、DSC3012における処理を中心に説明したが、この実施の形態2では、PDプリンタ装置1000においてDSC3012から画像データを取得する場合の処理について説明する。尚、この実施の形態2におけるハードウェア構成は前述の実施の形態1の場合と同様であるので、その説明を省略する。

【0067】

図13は、本発明の形態2に係るPDプリンタ装置1000における画像データの取得処理を説明するフローチャートで、この処理を実行するプログラムはプログラムメモリ3003aに記憶されており、DSP3002の制御の下に実行される。

【0068】

この処理は、DSC3012から印刷要求（「StartJob」）が送られてきて、印刷処理の開始が指示されることにより開始され、まずステップS31で、「GetFileInfo」をDSC3012に送って、DSC3012が印刷したい画像ファイルに関する情報を要求する。これによりステップS32で、DSC3012から、その画像ファイルに関する情報（データ量等）が送られてくると、それに含まれているファイル容量を示す情報を取得してステップS33に進み、その画像ファイルを一度に全て受信して処理可能かどうかを判定する。これはPDプリンタ装置1000が有しているメモリ3003の空エリアのメモリ容量等に基づいて判定される。ここで全画像データを一度に全て受信できないと判断するとステップS34に進み、その画像ファイルの読み出し開始アドレス及び読み出し量を指定して、その画像ファイルの部分画像データを要求する。これは「GetPartialFile」を使用して行われる。これによりDSC3012は、その指定された部分画像データを、その画像ファイルから読み出してPDプリンタ装置1000に送信する。ステップS35で、この部分画像データを受信したPDプリンタ装置1000は、ステップS36で、その部分画像データを処理して印刷を行う。次にステップS37に進み、その画像ファイルの全画像データをプリントしたかを調べ、していない時はステップS34に戻って、次の部分画像データを要求する。こうして、その画像ファイルの全てを受信して印刷するまで、上述の処理が繰り返し実行される。

【0069】

またステップS33で、その画像ファイルの画像データを一度に受信して処理可能であると反題した時はステップS38に進み、DSC3012に対してその画像ファイルの全データを要求し、ステップS39では、この要求に基づいてDSC3012から送られてくる、その画像ファイルの全画像データを受信して印刷する。

【0070】

図14は、本発明の実施の形態2に係るPDプリンタ装置1000における画像データの取得処理の他の例を説明するフローチャートで、この処理を実行するプログラムはプログラムメモリ3003aに記憶されており、DSP3002の制御の下に実行される。

【0071】

この処理は、DSC3012から印刷要求（「StartJob」）が送られてきて、印刷処理の開始が指示されることにより開始され、まずステップS41で、「GetFileInfo」をDSC3012に送って、DSC3012が印刷したい画像ファイルに関する情報を要求する。これによりステップS42で、DSC3012から、その画像ファイルに関する情報が送られてくるとステップS43に進み、その画像ファイルがサムネイル画像を含んでいるかどうかを判定する。含んでいる時はステップS44に進み、操作部101でインデックスプリントが指示されているかどうかを判定する。インデックスプリントが指示されている時はステップS45に進み、そのサムネイル画像データをDSC3012に要求して（「GetThumb」を発行する）、取得する。そしてステップS46に進み、その取得したサムネイル画像を基にインデックスプリントを実行する。

【0072】

尚、ステップS43でサムネイル画像を含んでいない時、或いはステップS44でインデックスプリントが指定されていない時はステップS33（図13）に進み、前述した画像印刷処理を実行する。

【0073】

このように実施の形態2によれば、PDプリンタ装置1000のメモリ容量や処理能力などに応じて、DSC3012から一度に取得する画像データの量を変更してDSC3012から入力することができる。

【0074】

また、DSC301 画像ファイルに、既にサムネイル画像 されていることを
予め知ることができるため、PDプリンタ装置1000においてインデックスプリントが
指示されている場合に、PDプリンタ装置1000におけるサムネイル画像の作成処理を
省略することができる。これにより、サムネイル画像の印刷を迅速にできる。

【0075】

なお本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インターフェース機器、リー
ダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、一つの機器からなる装置（例
えば、複写機、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

【0076】

また、本発明の目的は、前述した実施形態の機能（カメラ側で行われる処理、プリンタ
側で行われる各種印刷処理）を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶
媒体（または記録媒体）を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置
のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み
出し実行することによっても達成される。この場合、記憶媒体から読み出されたプログ
ラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコード
を記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。また、コンピュータが読み出したプ
ログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく
、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているオペレーティン
グシステム（OS）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述し
た実施形態の機能が実現される場合も含まれる。

【0077】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機
能拡張カードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書込まれた
後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張カードや機能拡張ユニットに備
わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形
態の機能が実現される場合も含まれる。

【0078】

以上説明したように実施の形態によれば、DSCとPDプリンタ装置とを接続している
ケーブルが外されることによりプリンタ装置における印刷処理が中断され、再度ケーブ
ルが接続される等して印刷が再開可能になった場合に、確実に印刷処理を再開して印刷で
きるという効果がある。

【0079】

また、DPOFファイルに基づいて印刷している場合と、各画像データを順次DSCか
らプリンタ装置に送信して印刷を行っている場合とで、印刷再開の際にDSCからプリン
タ装置に再送する画像データを変えることにより、いずれの場合においても確実に印刷を
再開できる。

【0080】

また、実施の形態に係るDSCによれば、StartJob或いはAbortJob等のコマンドをプリ
ンタ装置に発行した場合、プリンタ装置からの応答が無くても、所定の状態になってい
ると推定して、次の動作を決定することができ、更に、ステータスを確認するためのコマ
ンドをプリンタ装置に発行して、その時点でのプリンタ装置の状態（ステータス）を識別す
ることができる。

【0081】

更にまた、PDプリンタ装置からDSCに対して特定のステータスが応答された場合は
、それに応じた処理に移行する。例えば「NotExecuted」や「NotSupported」の場合は、
前者の場合はプリンタ装置の状態を問い合わせるコマンドを発行し、その応答に基づいて
、次に発行するコマンドを決定する。また後者の場合は、前回発行したコマンドはそのプ
リンタ装置でサポートされていないので、それ以降そのコマンドを発行しないように、例
えば表示部に表示するUIを変更する等の処理を実行する。これにより、無駄なコマンド
がプリンタ装置に再送されるのを防止できる。

【0082】

また実施の形態によれば、プリンタ装置の有しているメモリ容量或いは処理能力等に応じて、DSCから一度に取得する画像データの量を調整して画像データを取り込み、その画像データを処理して印刷できる。

【図面の簡単な説明】

【0083】

【図1】本発明の実施の形態に係るPDプリンタ装置の概観斜視図である。

【図2】実施の形態に係るPDプリンタ装置の操作パネルの概観図である。

【図3】実施の形態に係るPDプリンタ装置の制御に係る主要部の構成を示すブロック図である。

【図4】実施の形態に係るDSCの構成を示すブロック図である。

【図5】実施の形態に係るPDプリンタ装置とデジタルカメラとの接続を説明する図である。

【図6】実施の形態に係る印刷システムにおけるPDプリンタ装置とDSCとの間のコマンドのやり取りを説明する図である。

【図7】実施の形態に係るDSCから発行されるプリント開始コマンドの具体例を説明する図である。

【図8】実施の形態に係るJobStatusとDeviceStatusを説明する図である。

【図9】実施の形態に係るDSCによる印刷再開処理を説明するフローチャートである。

【図10】実施の形態に係るDSCによる処理を説明するフローチャートである。

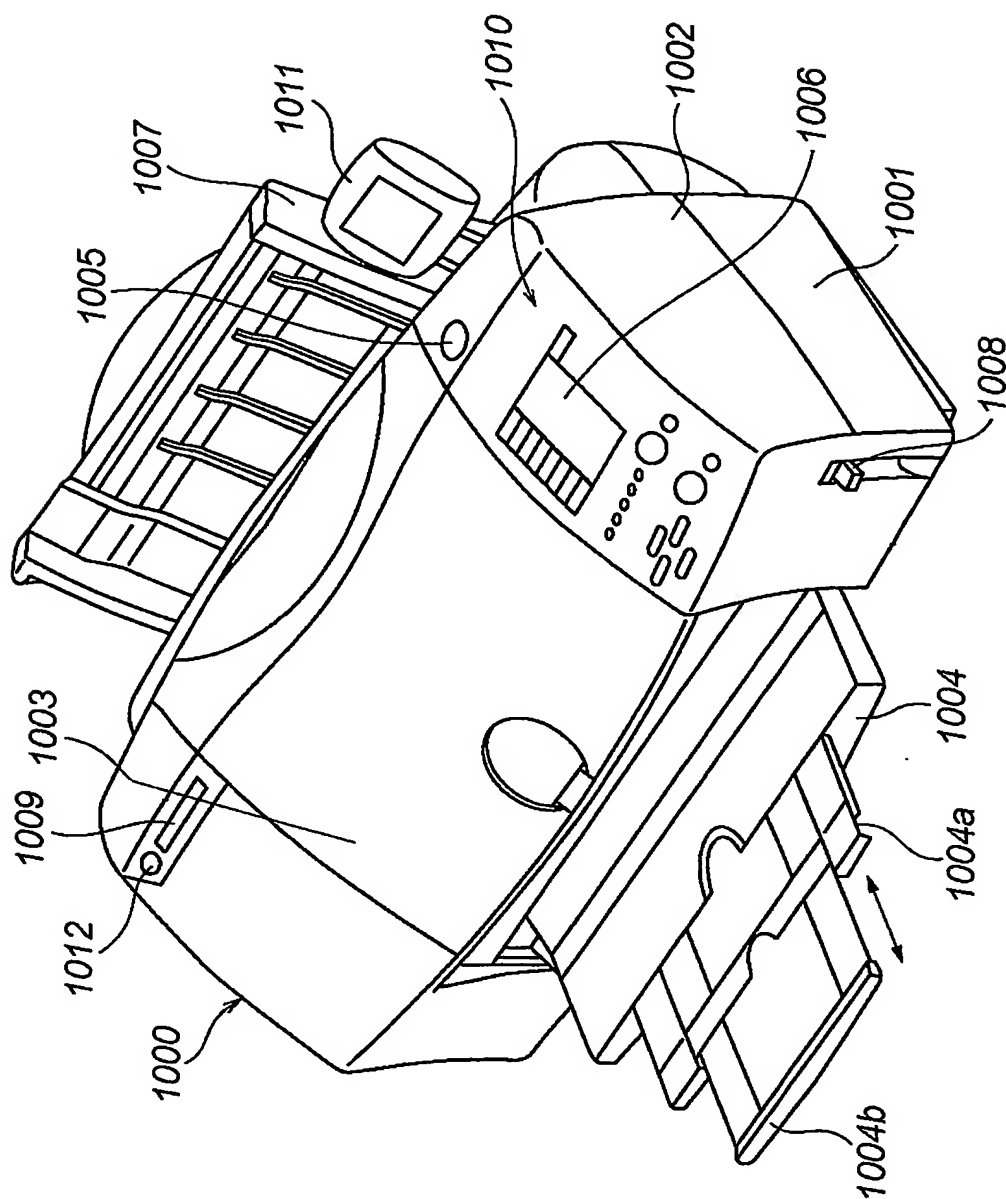
【図11】実施の形態に係るDSCにおける印刷継続のためのボタン操作に伴う処理を説明するフローチャートである。

【図12】実施の形態に係るDSCにおける印刷中止のためのボタン操作に伴う処理を説明するフローチャートである。

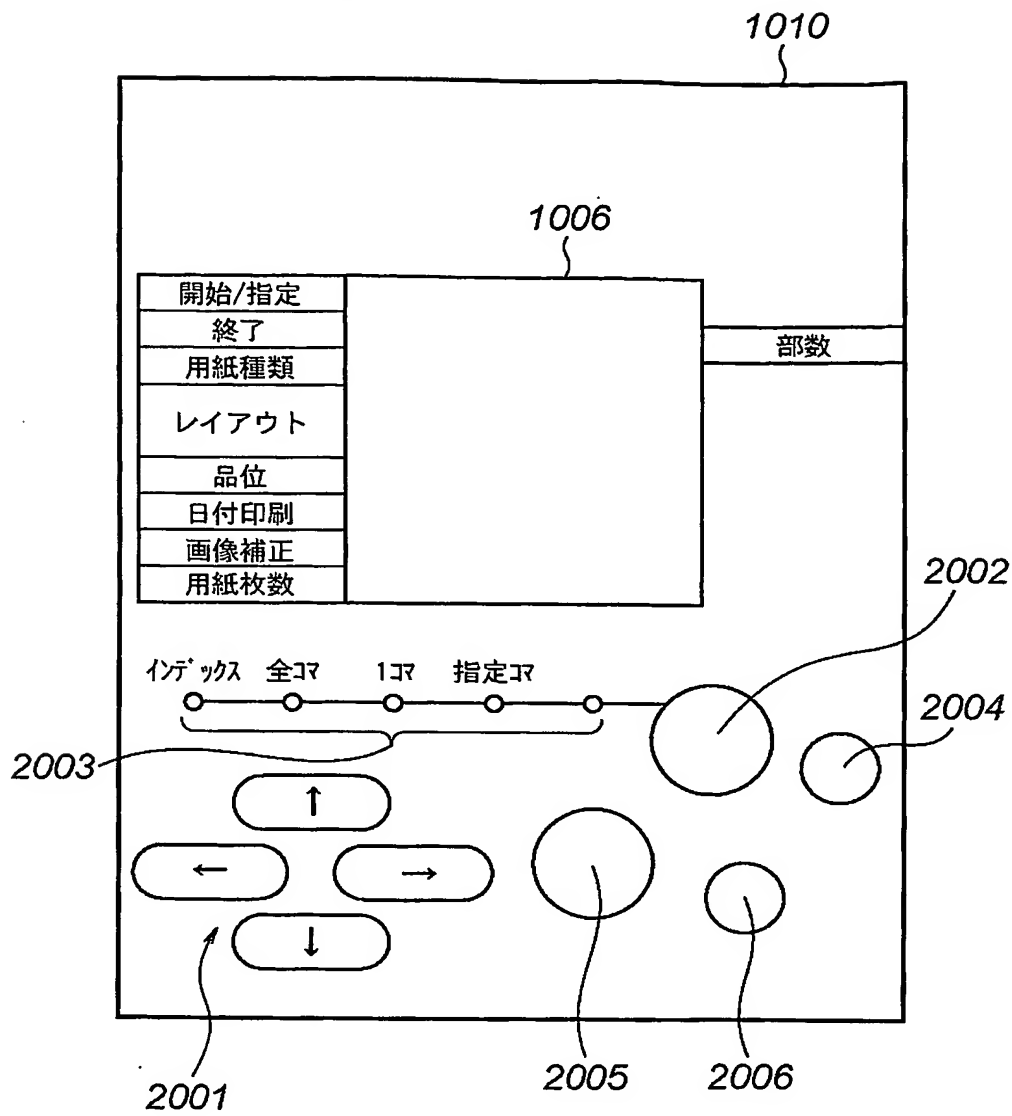
【図13】実施の形態2に係るPDプリンタ装置による処理を説明するフローチャートである。

【図14】実施の形態2に係るPDプリンタ装置による処理を説明するフローチャートである。

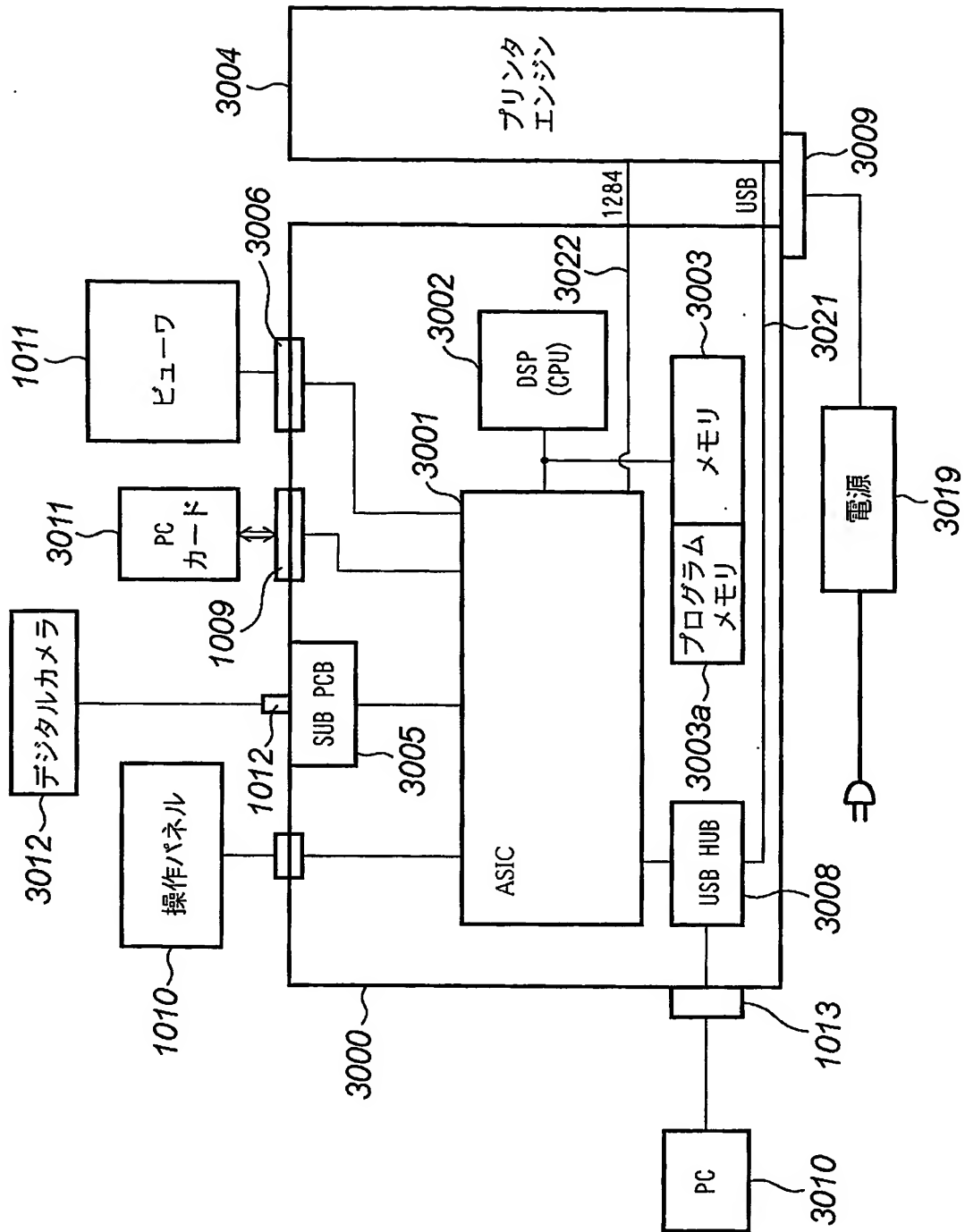
【書類名】 図面
【図 1】



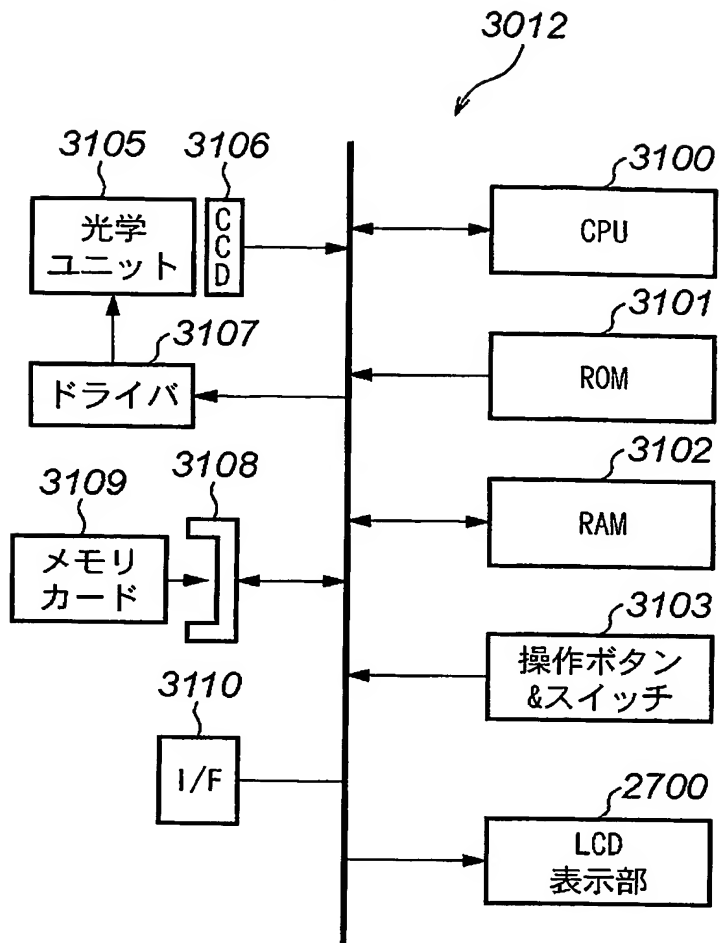
【図 2】



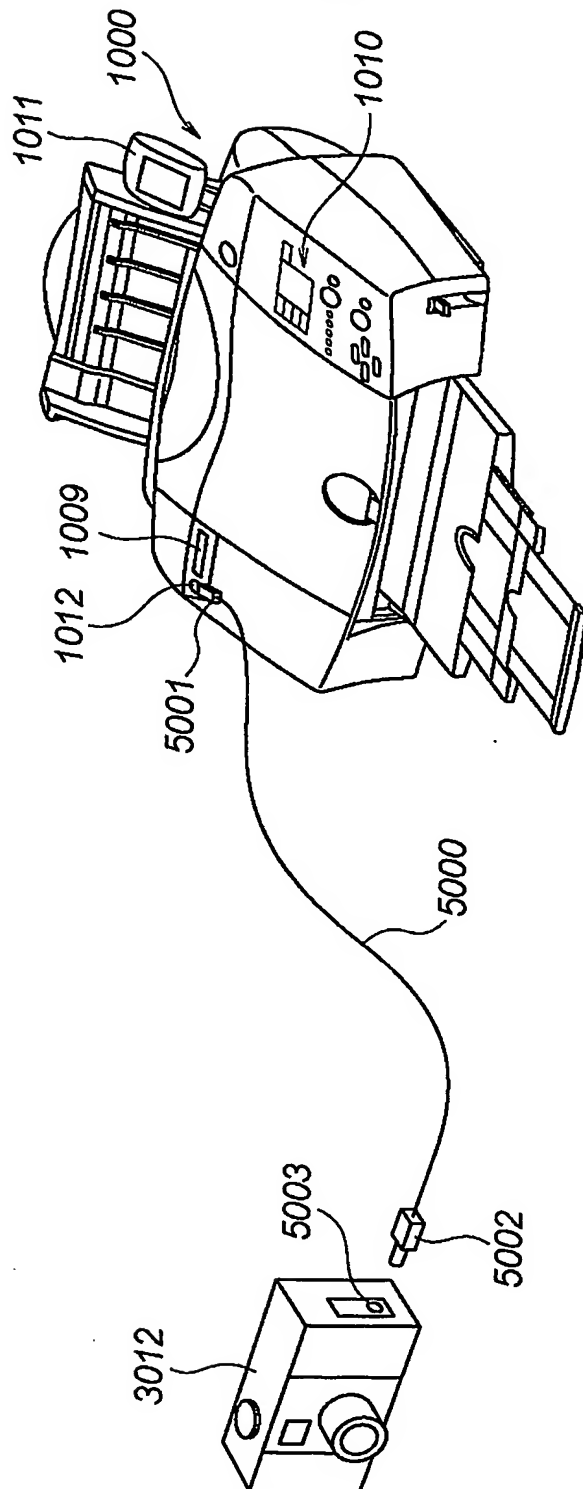
【図 3】



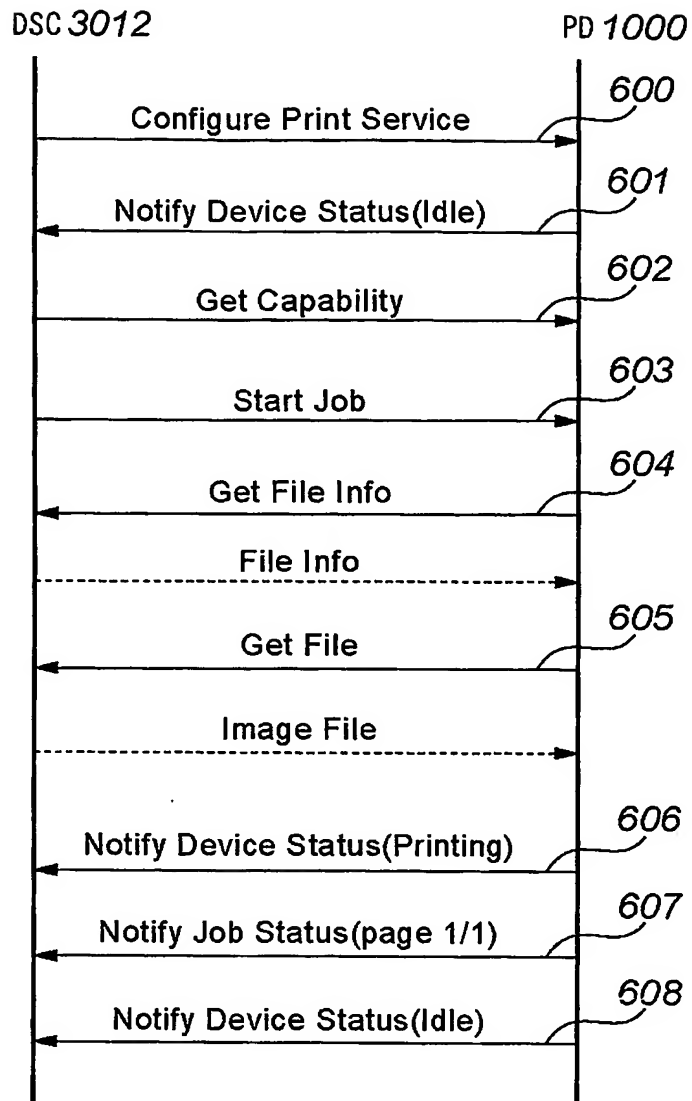
【図 4】



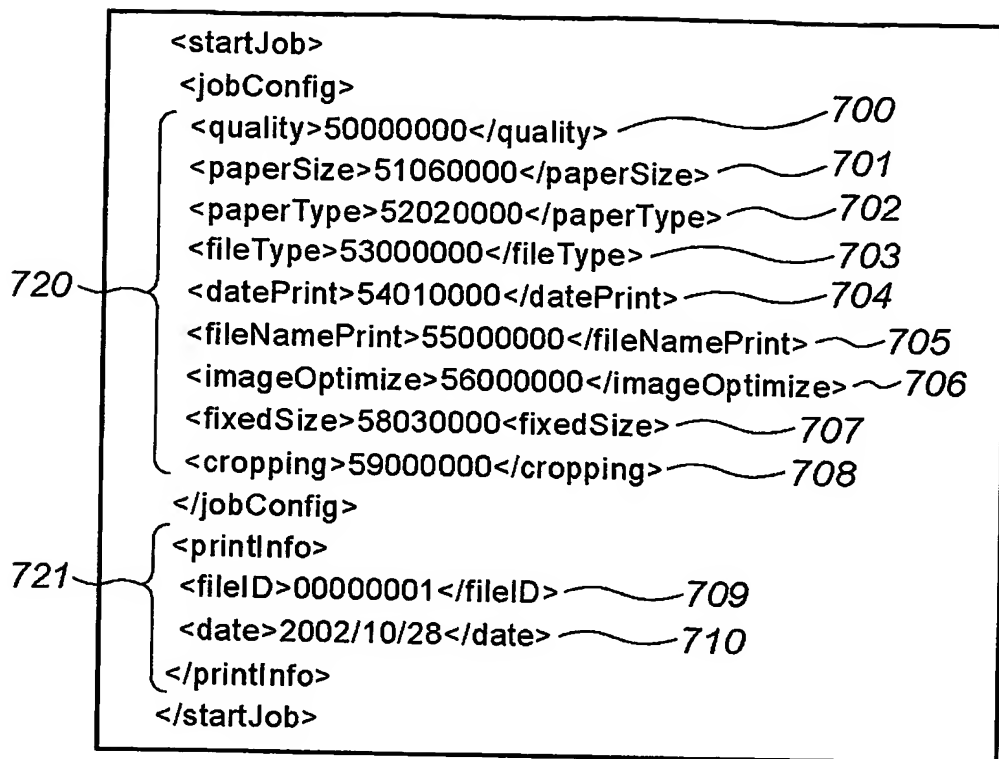
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

(1) Notify / Get Job Status

(A)

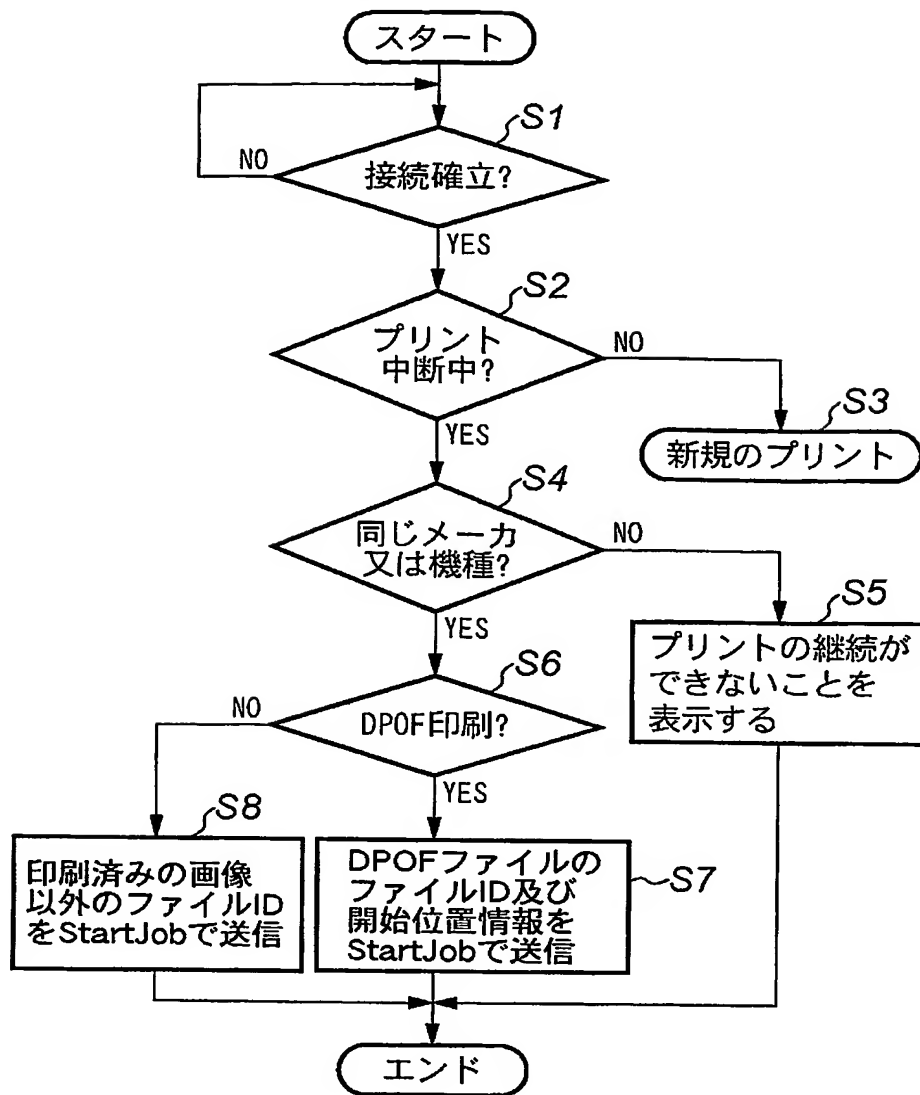
prtPID	ImagePath	copyID	progress	image Printed
--------	-----------	--------	----------	------------------

(2) Notify / Get Device Status

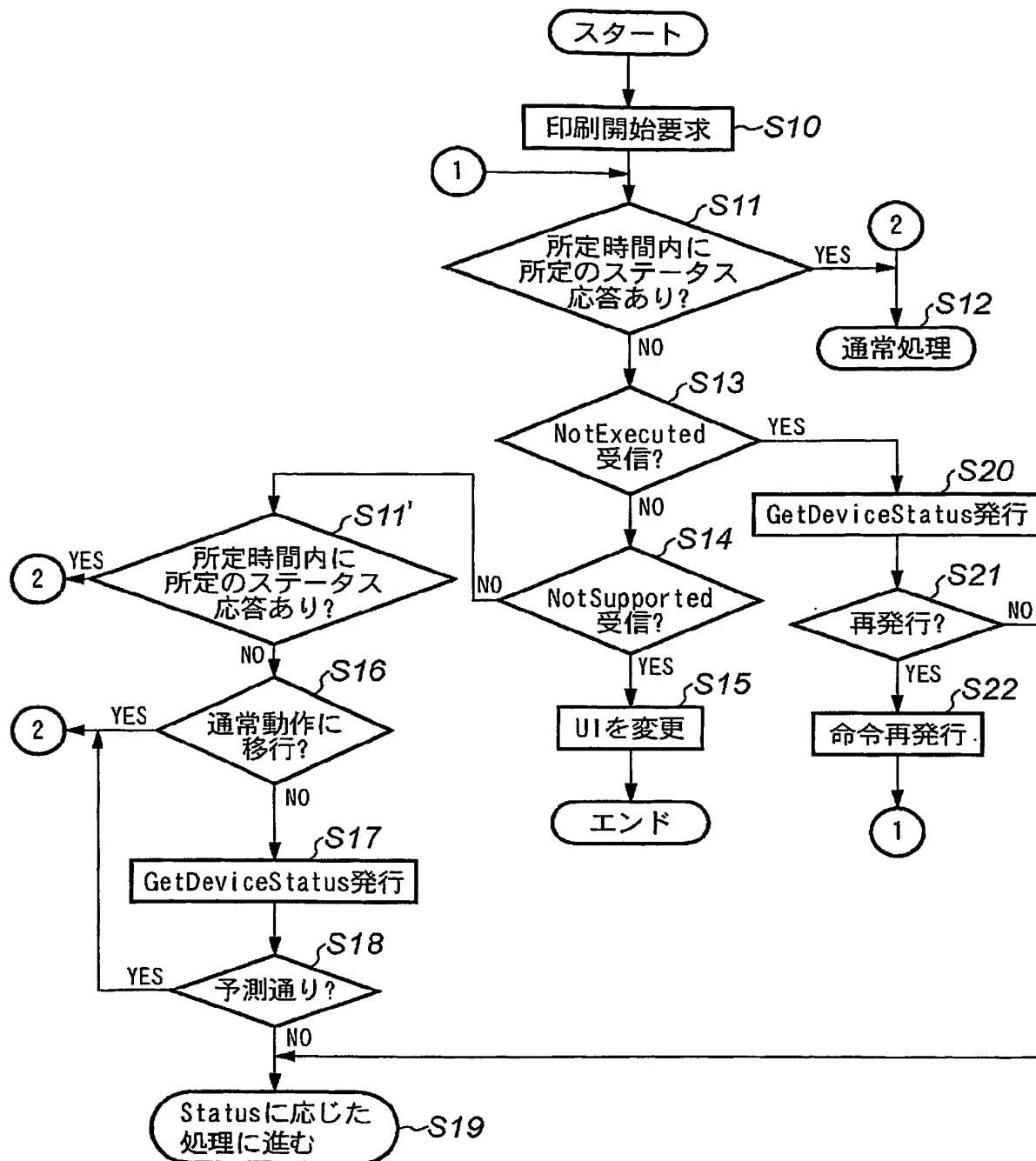
(B)

dpsPrint ServiceStatus	jobEnd Reason	error Status	error Reason	disconnect Enable	Capability Changed	newJobOK
---------------------------	------------------	-----------------	-----------------	----------------------	-----------------------	----------

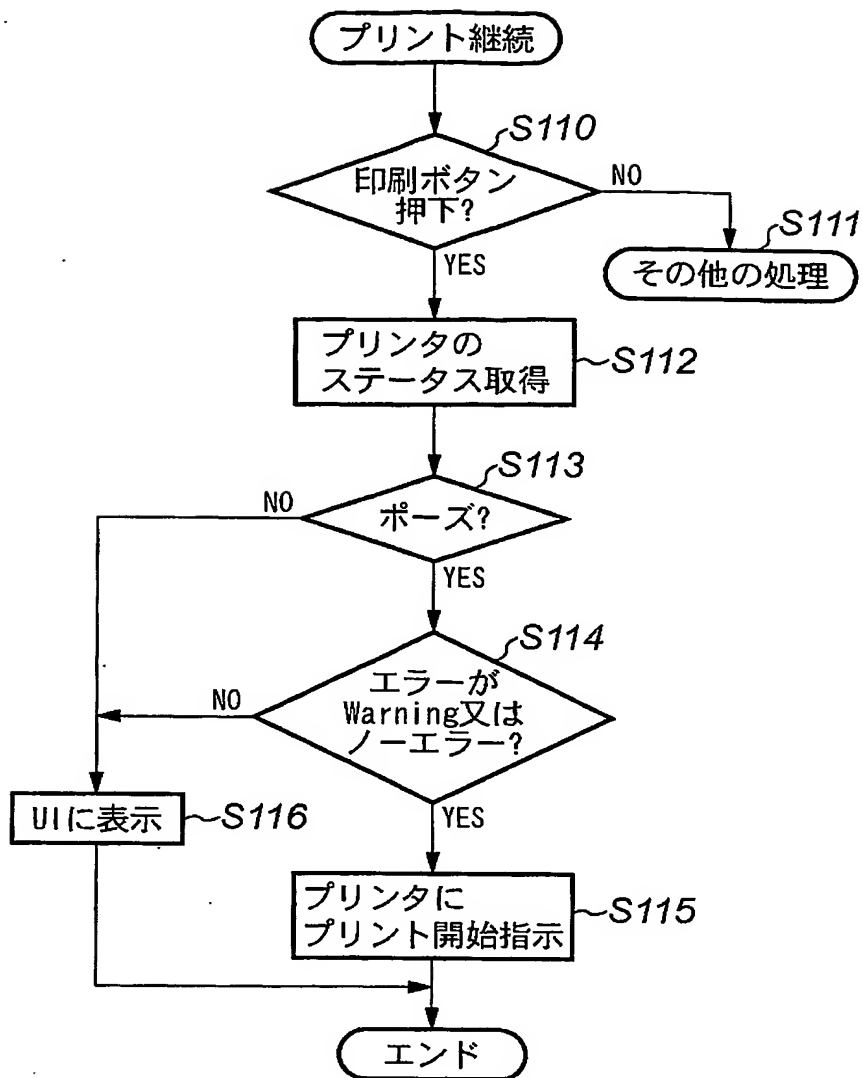
【図 9】



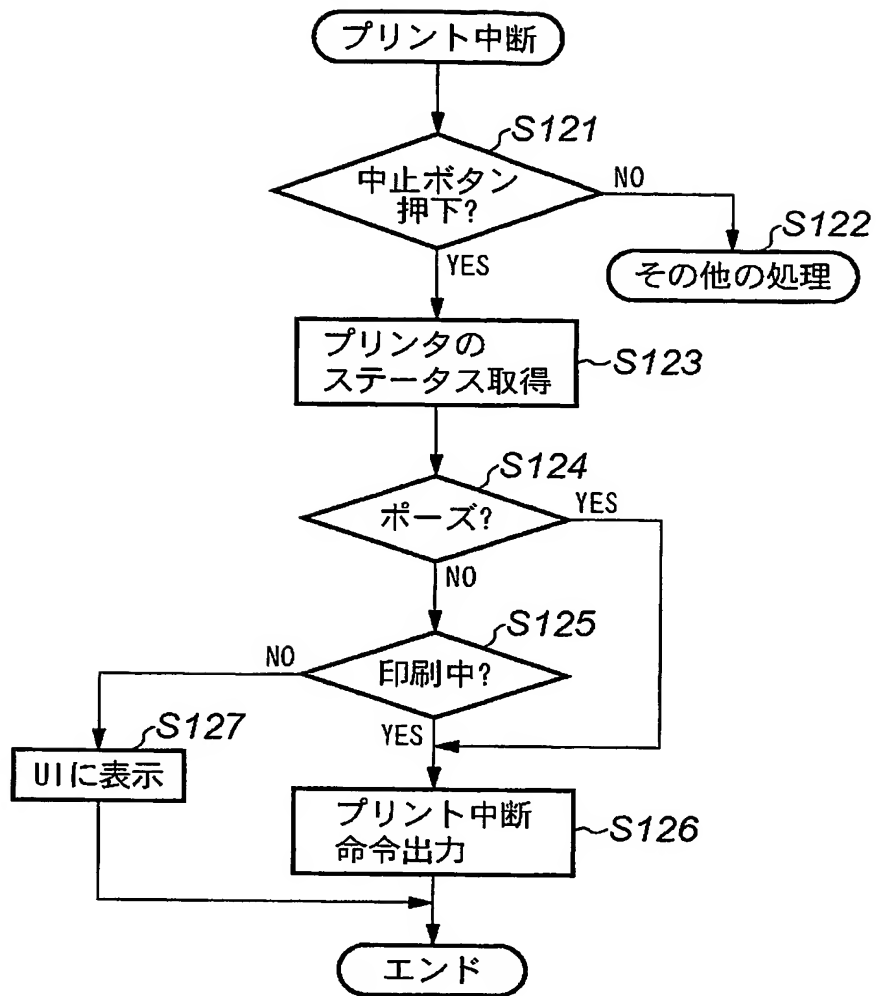
【図 10】



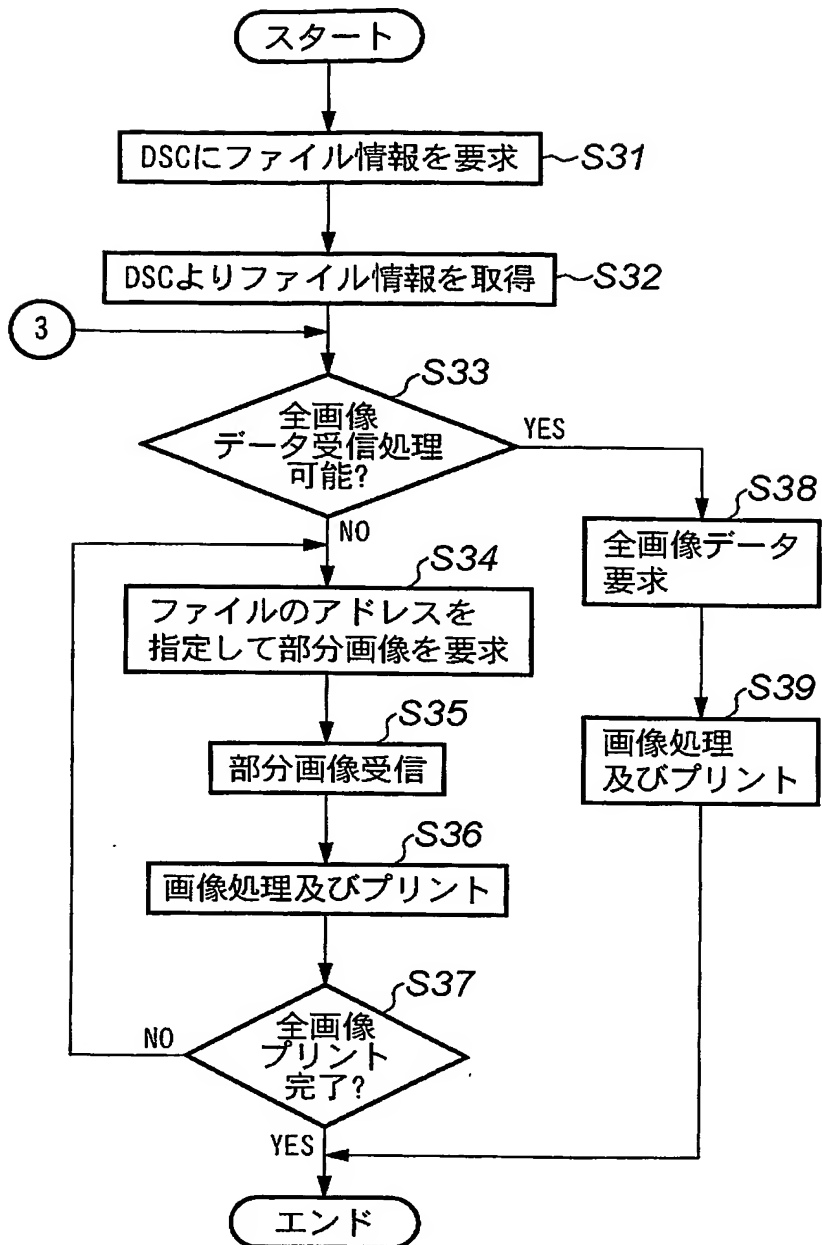
【図 11】



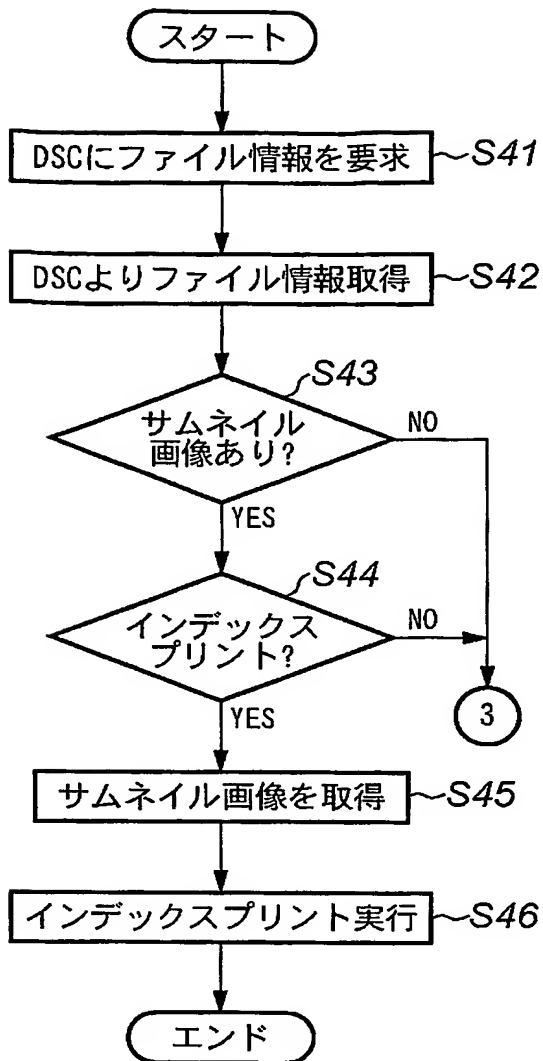
【図 12】



【図 13】



【図 14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 中断されている記録処理を再開する際における処理効率を高める。

【解決手段】 DSCとPDプリンタ装置とを汎用インターフェースを介して直接接続し、DSCからPDプリンタ装置に画像データを送信して記録する際、PDプリンタ装置で記録処理が中断されている時、DSCで記録再開が指示されるとPDプリンタ装置の種別が記録再開可能な種別であるか否かを判定し（S4）、記録再開可能な種別であると判定されると、DPOFファイルの印刷中であればDPOFファイルを再送して印刷済みのページの次のページからの印刷を指示し（S7）、各画像データを順次伝送して印刷するモードでは印刷済みの画像データ以降の印刷を指示する（S8）。

【選択図】 図9

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2004-015522
受付番号	50400113056
書類名	特許願
担当官	第一担当上席 0090
作成日	平成 16 年 1 月 28 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000001007
【住所又は居所】	東京都大田区下丸子 3 丁目 30 番 2 号
【氏名又は名称】	キャノン株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100076428
【住所又は居所】	東京都千代田区紀尾井町 3 番 6 号 秀和紀尾井町 パークビル 7 F 大塚国際特許事務所
【氏名又は名称】	大塚 康德

【選任した代理人】

【識別番号】	100112508
【住所又は居所】	東京都千代田区紀尾井町 3 番 6 号 秀和紀尾井町 パークビル 7 F 大塚国際特許事務所
【氏名又は名称】	高柳 司郎

【選任した代理人】

【識別番号】	100115071
【住所又は居所】	東京都千代田区紀尾井町 3 番 6 号 秀和紀尾井町 パークビル 7 F 大塚国際特許事務所
【氏名又は名称】	大塚 康弘

【選任した代理人】

【識別番号】	100116894
【住所又は居所】	東京都千代田区紀尾井町 3 番 6 号 秀和紀尾井町 パークビル 7 F 大塚国際特許事務所
【氏名又は名称】	木村 秀二

願 2004-015522

ページ: 1/E

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000001007]

1. 変更年月日

1990年 8月30日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名

キヤノン株式会社